

意味を理解し、情景を想像することで短歌を楽しむことをめざした授業

山口県下松市立久保小学校 教諭 浅村 芳枝

4年 国語

「おはなしのくにクラシック」

【番組紹介】

子ども達が古文・漢文や文語調の詩歌に興味をもつことができるように、一人芝居のスタイルで朗読したり、イメージ映像などに乗せて朗読をしたりしている。また、作者の横顔や時代背景などについても解説している。

【授業デザイン】

単元名：「百人一首」を声に出して読んでみよう

1 百人一首に関する経験を確認し、番組を視聴する。

2 番組での短歌の紹介の仕方を参考にして、紹介内容を考える

番組を参考にして、教科書に載っている短歌について紹介する際に、どのような情報を入れるとよいかということについて話し合う。

- 作者について
- 短歌の意味
- 短歌が作られた背景

3 短歌を紹介する会の準備をする

①担当の短歌について調べる。

教科書に載っている十首のうち、番組で紹介されていた三首を除く七首を7グループで分担する。教科書、教師が準備した資料、国語辞典等を使い、調べる。



これは、阿倍仲麻呂が中国から故郷を思い浮かべて詠んだ歌なんだって。

②紹介の仕方を考える。

番組を想起させ、どのように紹介したら聞く人に伝わるか考えさせる。

5 短歌を紹介する会を開く

それぞれのグループが調べた短歌について紹介し合う。

【本学級の実態と関連したねらい】

友達と話すことで、新しい考えを見いだしたり、考えを整理したりすることができる子どもが多い。グループで短歌について調べて紹介したり、他のグループの紹介を聞いたりする活動を通して、短歌について理解し、情景を思い浮かべることができるようにする。

【今回の実践における番組効果】

- 1 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
- 2 未経験あるいは追体験の困難な事物や事象に対して、具体的な理解の手がかりを与える。
- 7 鑑賞や批判のためのすぐれた資料を提供する。

【深い学びに関する教師の工夫】

■番組活用の意図と活用のタイミング

子どもは百人一首で遊んだ経験はあるが、短歌の意味は知らない。短歌の意味をその情景をイメージした映像とともに紹介している番組を見せることで、短歌から情景を思い浮かべることができることや、そうすることでより百人一首を楽しむことができることに気付かせたいと考えた。

番組が短歌の理解に役立ったと92%の子どもが考えている。理由としておもに次の3つが挙げられている。「短歌の意味が理解できた」「読み方の手本になった」「教科書に載っていないことが分かった」

■短歌を紹介する会の設定

調べた短歌について紹介し合う場を設定することで、子どもにとっては難しい言葉、なじみのない言葉であってもなんとか読み取り、友達にその意味を分かるように伝えようとするだろうと考えた。

また、短歌の意味や作品の背景について調べることで、より豊かに情景を想像することができるだろうと考えた。

■グループでの調べ学習

個人で短歌について調べさせると、教科書や資料に書いてある説明を写すだけで終わってしまう子どももいると思われるので、グループでの調べ学習を取り入れた。調べ学習では、教師が準備した資料を使わせることで、内容理解に時間を使うことができるようにした。

80%の子どもが、グループで調べて発表する活動に自主的に取り組むことができたと考えている。理由として、「グループだと話しやすい」「話し合っただけでまとめるのがおもしろい」などが挙げられた。一人だと手が止まってしまう子どももグループの話し合いに参加することができていた。

【成果と課題】

番組を視聴してから調べ学習に入ったことで、短歌の意味や作者について知りたいという思いをもって取り組ませることができた。資料をもとにした話し合いを通して短歌の意味について理解できたグループは、短歌のことがよく分かったと満足することができていた。一方、子どもにとっては説明の言葉が難しい資料しかなかった短歌の担当になったグループは、確実には意味を理解できないまま紹介することになってしまった。教師がもっと調べ学習の時間にフォローすればよかった。また、知識面だけの紹介だけでなく、言葉の響きやリズムを楽しむことにも目を向けることのできる発表形式も考えられたのではないかなと思う。今後も番組を活用し、子どもが古典に親しもうとすることができる授業を工夫していきたい。